

直接抗グロブリン試験の結果解釈

～カラム凝集法と試験管法の結果の差異について～

○清水目まい子、木村沙紀、山本喜則、丸山千恵子、木村豊、中村文隆（帝京大学ちば総合医療センター検査部）

〈目的〉当院では、直接抗グロブリン試験（以下 DAT）の結果は、カラム凝集法（以下 CAT 法）にて検査を行い、陽性を示した場合には試験管法（以下 TT 法）にて精査を行う。TT 法が陰性を示した場合は DAT 陰性として報告を行っている。しかし、CAT 法のみ陽性反応の中には DAT-Negative-AIHA を引き起こすような、低親和性の抗体によるものも含まれているといわれている。以上より、CAT 法導入時からの DAT 全結果を用いて、CAT 法のみ陽性検体の臨床的意義、及び報告方法の検討を行い報告する。

〈方法〉2014 年 3 月 26 日～2015 年 11 月 16 日までに提出された DAT の結果 167 件を「CAT・TT 法共に陰性群」、「CAT 法のみ陽性群」、「CAT・TT 法共に陽性群」の 3 群に分け、検査目的、及び貧血・溶血の有無の検討を行った。

〈結果〉AIHA と診断された症例は「CAT・TT 共に陽性群」に含まれていた。「CAT 法のみ陽性群」に溶血性貧血を疑う症例は含まれていなかった。依頼理由は 3 群共に溶血性貧血の否定目的と思われるものが一番多くみられていた。症例内容、及び依頼理由から CAT 法のみ陽性を示した症例を DAT 陽性として臨床に返す意義は無いと思われた。

〈まとめ〉今回の検討結果から、CAT 法のみ陽性であることを臨床に報告する必要性は低いことが示された。今後も、CAT 法陽性時には TT 法の精査の上、報告を行っていく必要がある。しかし、溶血性貧血が強く疑われる症例の原因究明の為に DAT が提出され、CAT 法のみ陽性を示した場合には DAT 陰性と報告し、コメント欄に CAT 法のみ陽性を示している旨を記載することによって意義のある報告ができると考える。